

Moodleを利用した保育実践の試み

—授業研究『乳児保育Ⅱ』 乳幼児を対象としたレクリエーション計画—

林 愛子・洞田 勝博

キーワード：Moodle、保育実践、レクリエーション計画

はじめに

本学子ども学科で開講されている「乳児保育Ⅱ」は、卒業必修科目、保育士養成の必修科目である。身体の骨格系・神経系・内分泌系など身体機能の成熟によって乳幼児期の発達は大きく左右され、さらに、その成熟度は行動そのものを装飾するといつてよい。そのため、計15回の授業は胎児期からの身体的特性に焦点を当て、その特徴を理解することで日常生活を支援する援助専門職としての能力を養うことを目的としている。その一環として、地域の子育て支援センターと連携し、全5回のレクリエーションを実施している。この計画を元に、授業1回目のオリエンテーションでグループ分けを行い、レクリエーション実施日に向けて準備を進めることとしている。その際、レクリエーションを実施したグループがどのような活動を実施したか明確にすること、まだ実施していないグループが先の活動内容を参考にすることができること、および同じような反省が繰り返されないようにすることを目的に、Moodleを利用することで全体への周知を図ることとした。

本稿では、「乳児保育Ⅱ」の授業においてMoodleを活用したレクリエーション計画について、終了後のアンケートを基に、学生の学びを検討する。

1. 乳幼児のあそび

乳児をイメージするとき、足を口に入れたりガラガラなどの音を聞いたりしている姿や、また、保護者などとの間には抱っこやいいいいないばあなどの関

わりを挙げる場合が少なくない。このことからわかるように、遊びには「もの」と「人」が関係している。自身での移動が困難であるからこそ、その場で足を口に入れたり目の前に手をかざしてみたり自分のからだを使って遊ぶ時期。身体的な発達とともにお座りやはいはいなどを通した探索行動の時期。また、ドアの開閉や絵本のページをめくるなど繰り返しの行動を楽しむ時期。ブロックを車に、バナナを電話にといった見立て遊びへと変化する。また、抱っこやかいたかいなど受動的でかつ要求としては能動的な保護者との関わりは、同年代の子どもや他のおとなへと広がり、徐々に仲間を形成する。

このように、乳児にとって遊びとは、一人或いは保護者との2者関係が基盤にあるといえる。

2. 乳児保育Ⅱと乳幼児対象のレクリエーションの意味

1) 乳児保育とレクリエーション

保育士養成科目である『乳児保育』は、教授内容として以下の5つの目標が提示されている。

1. 乳児保育の理念と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。
2. 保育所、乳児院などにおける乳児保育の現状と課題について理解する。
3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。
4. 乳児保育の計画を立案し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。
5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。

乳児を取り巻く家庭環境と子育て支援の場について、保護者や地域子育て支援等との連携について、などの視点が求められている。以上のことから分かるように、乳児の保育を考えるとその保護者を含めた、両者への支援を考える必要がある。

乳児保育では、「乳児の身体的発育を理解し、その生活環境を保障すること」や「保護者が楽しく子育てに取り組むこと」を統合し、実践する力を養う。そ

のため、子どもだけでなく保護者を対象とし、親子で共有する楽しい時間を通して、保護者支援とは何かを考える時間としてレクリエーションを課している。

2) レクリエーションの進め方

初回講義において、シラバスに則り講義の進め方を説明する（図1）。

学生は全5回のレクリエーションに必ず1回参加する。これまでは、レクリエーション実施後にその内容や反省についてDVDを用いて担当グループ学生の発表時間を設け、教員からも反省点と改善点に関してコメントを加える取り組みを行ってきた。しかし、実施後の発表だけでは流れを追うだけにとどまり、断片的な情報のみに限られ、各グループの工夫した点や改善点が共有できず、次に生かされることがほとんどなかった。

学生にとっては1回のレクリエーションであるが、全5回を全員で成功へ導くことを目標に、すべてのレクリエーションに関する情報を共有する場を設けることが課題となった。そこで、今回より新たにMoodleを利用し、レクリエーションの改善を試みることにした（表1）。

表1 レクリエーションの進め方

レクリエーション	改善前	改善後
実施前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人数の偏りがないようにグループ分け ・ 実施日に向けてグループ活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Moodle説明、入力練習追加 ・ 各グループのレクリエーションテーマの入力を追加 ・ 指導案やお土産などを写真やPDFにて閲覧 ・ 指導案やリハーサルに対するコメントを入力
実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の承諾を得て、写真とビデオの撮影 	改善前と同様
実施後	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ全員で、動画を見ながら反省会 ・ レポート提出（個人） ・ 実施した翌週、動画や実施に使用した物品を使用して、内容や参加者の反応、実施しての反省などを発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実施の動画を閲覧し、発表内容と動画を見ての感想を入力

301

乳児保育Ⅱ

ねらい

◎ 乳幼児の特性を考慮したかわり、観察、行事計画、諸対策をとる能力を養うこと

講義計画

1. 異年齢集団を対象にしたレクリエーションの計画

場所：○小児科併設 子育て支援センター“××××”

時間：11:00～12:00

対象：0～3歳児とその保護者

講義回数	日時	メンバー
4	① 10月15日(月)	
7	② 11月12日(月)	
10	③ 12月3日(月)	
12	④ 12月17日(月)	
14	⑤ 1月21日(月)	

1. ポスターの作成・貼付：2週間前(①10/10、②11/7、③11/21、④12/5、⑤12/26)

2. レクリエーション内容の検討・計画・準備、お土産づくり

提出期限 1回目：実施2週前の水曜13時00分まで(①10/12、②11/9、③11/22、④12/7、⑤1/11)

最終：実施前週の水曜13時00分まで(①10/19、②11/16、③11/30、④12/14、⑤1/18)

3. 実施

4. 反省会

5. レポート：終了後3日後13時まで (①10/27、②11/24、③12/7、④12/22、⑤1/26)

6. 最終ポスター作成・貼付：1週間後まで(①10/31、②11/28、③12/12、④12/26、⑤1/30)

※ 注意事項

- ・ ピンクボロシャツ、ズボン着用(短パン不可)、エプロン、ネーム(針の使用不可)
- ・ 髪はまとめる、アクセサリー不可、爪は短く切る

図1 レクリエーション実施までの手続き

Moodle上では、図1で示した手続きに合わせて写真やPDFを確認できるようにした。まず、レクリエーションはテーマが決定し、参加者募集のポスターを製作することから始まる。そのため、テーマと実際のポスターを確認できるようにした。レクリエーション指導案に関しては、グループ討議やリハーサルを通して修正が加えられたことがわかるようにその都度PDFにて掲載し、併せて、なぜ修正が加えられたのか指導案毎にその意見や提案を書き込むことのできるフォーラム機能を利用した。また、製作やからだを動かすなど主活動で使用する道具も、実物大がわかるように工夫した。実施直前にはグループの力動を高めること、当日への意気込みを共有することを目的に、また、実施直後にはその興奮や安堵感をそのままに表現できるよう感想や反省を書き込むフォーラムをそれぞれに追加した。実施の様子はビデオ撮影と写真撮影によって振り返り、指導案に沿った動画編集を学生が行い、本番の様子がわかるように掲載した。動画の一部は実施翌週の講義内で実施の様子を発表する際に利用するが、全動画は各々で閲覧し、その感想を書き込むことで次のレクリエーションの動機づけに、また、実施した学生にとっては感想を受け取ることで達成感を味わえ、さらには再度見直す機会となるようにした。写真に関しては、最終ポスターに使用してレクリエーションの楽しさを伝え、動画では確認できない参加者の表情を確認できるようにした。

3. Moodleの利用

Moodleは、インターネット上で授業用のWebページを作成し、実践していくためのコンテンツ管理システム（CMS：Course Management System）であり、多くの大学でe-Learningシステムとして採用されている。

PHPの動作するどんなコンピュータでも動作し、オープンソースソフトウェアであるため、構築時間もかからず、比較的安価で済むのが特徴である。

本学のMoodleでは、Moodle Liteを導入しているため、パソコンやスマートフォンからのアクセスはもちろんのこと、ケータイからも暗号化した通信が可能であり、コメント等の書き込みには端末に影響されない環境において授業を

行った。また本授業のページは情報のセキュリティの観点より、履修者以外の学生はアクセスできないようにした。

本報告で使用したMoodleのサービスは、JPEG・PDFファイルのアップロード、フォーラム、動画の再生である。これらについて表2にまとめる。

レクリエーションは前述したように全5回実施した。第1回目の講義にてグループ分けを行い、その後からMoodleの使用を開始した。Moodleには、以下の内容を開示し、コメントを記入する項目（フォーラム）も作成した。

表2 Moodleにおける開示およびコメント記入項目と掲載方法

項目	掲載方法
レクリエーションのテーマとその内容	コースアウトライン
実施会場への告知ポスター	JPEG
指導案	PDF
レクリエーション実施時に使用する物	JPEG
お土産品	JPEG
本番のVTR	FLV
レクリエーション後のポスター	JPEG
指導案に対する意見及び提案（担当グループ）	フォーラム
本番終了後の感想（担当グループ）	フォーラム
本番のVTRを見ての感想（担当していない学生）	フォーラム

次にグループ1がレクリエーションを行うまでの流れを示したMoodle画面である（図2）。残りのグループ2～5も同様のことを行った。

またグループ1の「企画案に対しての意見及び提案」の書き込みを図3に示した。学生がMoodleを利用し活発な意見を交換している様子が伺える。

3 10/11 第3回 第1グループ指導案修正
 ・第1グループ … ポスター貼り 10/10まで
 10/17までにリハーサル(約40分)を行うこと

グループ1_ポスター → 編集 削除 複製
 第1グループ_保育指導案(初回) → 編集 削除 複製
 第1グループ_保育指導案(修正) → 編集 削除 複製
 第1グループ指導案(修正)に対しての意見および提案 → 編集 削除 複製
 第1グループ指導案(10/17リハーサル)に対しての意見および提案 → 編集 削除 複製

リソースの追加 … 活動の追加 …

4 10/17 第4回 第1グループ…指導案最終提出(修正済み)
 最終リハーサル

第1グループ_保育指導案(最終) → 編集 削除 複製
 グループ1_活動中使用するもの → 編集 削除 複製
 グループ1_おみやげ1 → 編集 削除 複製
 グループ1_おみやげ2 → 編集 削除 複製
 第1グループ 本番へ向けて(10/20以降記入) → 編集 削除 複製

リソースの追加 … 活動の追加 …

5 10/24 第5回 「ミュージック親子体操」本番
 第1グループ … レポート提出(10/27まで)
 最終ポスター作成およびポスター貼り(10/31まで)

第1グループ「ミュージック親子体操」の反省 → 編集 削除 複製
 グループ1 最終ポスター → 編集 削除 複製

リソースの追加 … 活動の追加 …

6 11/7 第6回
 第2グループ … ポスター作成およびポスター貼り
 11/9までに指導案提出

「ミュージック親子体操」レビュー → 編集 削除 複製
 第1グループ 本番のビデオを見ての感想 → 編集 削除 複製

図2 実際のMoodle画面(グループ1を抜粋)

	<p>Re:第1グループ企画案(10/17リハ)に対しての意見および提案 2011年 10月 18日(火曜日) 09:54 - HAYASHI Aiko の投稿</p> <p>昨日(10/17)のリハーサルの指導掲載。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大きな葉の木の 下で:歌だけ1回、大きな葉1回、親子で2回実施。参加することがよく知っている歌である可能性が高いので、歌だけの1回は省いてもいいのではないかと？ 2. 頭、肩、ひざポン:おもしろい動きを考えている。 3. アンパンマン体操:1曲の中に繰り返し返しの振りがあるので、幼児向き。 <p>どの内容を見ても、よく考えられている。が、もっともっと、仕掛けを考えて、それぞれの曲で、振り付けとリズム・デノボで気持ちを高めることができるはず。話し言葉はもっと少なくていい。一つひとつがおもしろさを増すと全体的な流れがとてよくなる。</p> <p>今後1週間で、学生は歌を覚えること、声を大きく出すこと、を意識すること！</p> <p style="text-align: right;">親記事を表示する 編集 削除 返信</p>
	<p>Re:第1グループ企画案(10/17リハーサル)に対しての意見および提案 2011年 10月 18日(火曜日) 22:13 - 投稿者の投稿</p> <p>◎はじめの司会では 指導びを始める際に 周りの学生とアイコンタクトを取ってから始めればよかったと感じました。そうすることで 周りの学生もあわせやすかったかなと思いました。◎アンパンマン体操では 間奏の間に司会者が 声掛けをしているときはピアノの音を下げたらよかったと感じました。あとは学生やこどもたちの様子を見て、ピアノを合わせていきたいと思います。子どもたちが楽しめるように自分たちが楽しみな声と大きな動きでレクレーションを行いたいです。</p> <p style="text-align: right;">親記事を表示する 編集 削除 返信</p>
	<p>Re:第1グループ企画案(10/17リハーサル)に対しての意見および提案 2011年 10月 19日(水曜日) 07:25 - 投稿者の投稿</p> <p>まねっこチャチャチャ、ベアと手を叩くタイミングを合わせる事や、もっと短く分りやすい声かけができるように思いました。また、活動内容を更に面白く子ども達が興味を示すような動きを取り入れる、声の大きく出すことや フリを完璧に覚える 流れをしっかり把握するという課題が見つかったので 残りの時間を有効に活用していきたいです。</p> <p style="text-align: right;">親記事を表示する 編集 削除 返信</p>
	<p>Re:第1グループ企画案(10/17リハーサル)に対しての意見および提案 2011年 10月 19日(水曜日) 09:45 - 投稿者の投稿</p> <p>初めて最初から最後まで通したので、流れや時間などがわかった。全体的にグダグダだったが、それぞれの活動で良い点や改善点がわかったので、あと1週間の間で改善していきたいと思う。また、学生は全員もっと大きな声と動きが出来るように練習していきたい。</p> <p style="text-align: right;">親記事を表示する 編集 削除 返信</p>
	<p>Re:第1グループ企画案(10/17リハーサル)に対しての意見および提案 2011年 10月 19日(水曜日) 10:08 - 投稿者の投稿</p> <p>リハ前後の修正 () 休みがない、どこかにゆくり出来る所を作る。◎最後の挨拶 () アンパンマン体操の後、急に挨拶に入るのではなく、手遊びを入れる。() アンパンマンの手遊びを入れる。◎アンパンマン体操 () 声かけが多いので間奏の声かけをなくす。ストレッチを増やす。() アンパンマン体操で動きが無くなる所があるので簡単な動きを付ける。最後のポーズの所はアンパンマンにして、ピアノと合わせる。◎頭、肩、ひざポン! () お母さんがこどもの目、耳、鼻、口を触ってあげて、次はこどもが触る。親子で活動するところを座って</p>

図3 「第1グループ企画案に対しての意見及び提案」の書き込み(抜粋)

4. アンケート結果から見たMoodleの活用について

履修者49名のうち、有効回答は38.8%の19名であった(図4)。レクリエーションの実施を重ねることで、moodleのコンテンツが充実したことが、多くの学生の活用へと繋がったものと言える。

活用頻度としては、月に2-3回が最も多く36.8%、次いで週に2-3回が47.4%であり、まったく利用しなかった学生はいなかった(表3)。レクリエーションは月に1-2回の実施計画がなされており、さらに、学生にとっては1

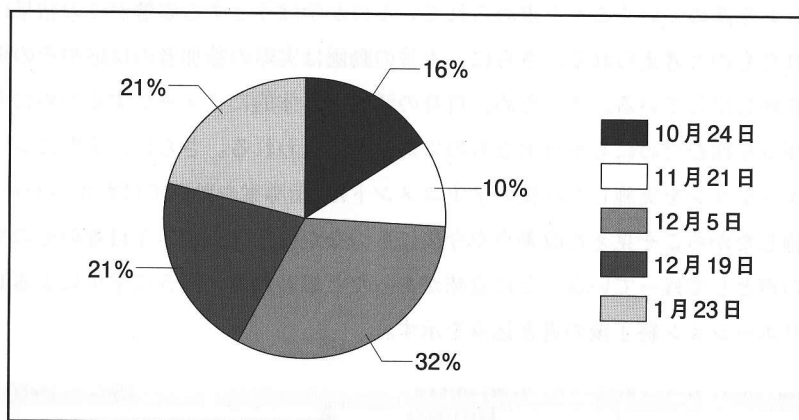


図4 回答した学生のレクリエーション参加日

表3 Moodleの活用頻度

毎日	0.0%
2 - 3回/週	47.4%
2 - 3回/月	36.8%
1回/2 - 3月	15.8%
まったく活用しなかった	0.0%

表4 Moodleにて活用した項目

指導案	52.6%
指導案の改善コメント	73.7%
ポスターやお土産などの画像	36.8%
実施前のコメント	52.6%
実施後のコメント	73.7%
実施の動画	73.7%
実施後のコメント	57.9%
教員のコメント	73.7%
その他	0.0%

(複数回答あり)

回の実施である。そのため、毎日活用することはなく、また、同じ理由から、全く活用しないということも考えられない。担当グループの実施に向けて、指導案やお土産案など企画を練る際に集中的に活用したのではないかと推測できる。

学生がMoodleで活用した項目は、教員のコメント、本番実施後の学生コメント、本番の動画の3項目であり、73.7%と最も多く活用した項目であった(表4)。次いで、指導案や実施後のコメントが52.6%であった。準備を進める中でどのような指導を受けているのか、また、どのような視点でこのレクリエー

ションを進めていくことを求められているのか学ぼうとする姿勢がこの結果に表れたものと考えられる。さらに、本番の動画は実際の参加者の反応やその環境を映し出している。そのため、自身の活動を具体的にイメージするためにも雰囲気をつかむためにも不可欠なものであったと思われる。さらに、実際にレクリエーションを実施した直後の学生コメントは、指導案や動画ではわからない、実施したからこそ見えた改善点や今後にもつながる工夫点が学生自身のそのまの声として残っていることに意味があったと思われる。図5に学生によるレクリエーション終了後の書き込みを示す。

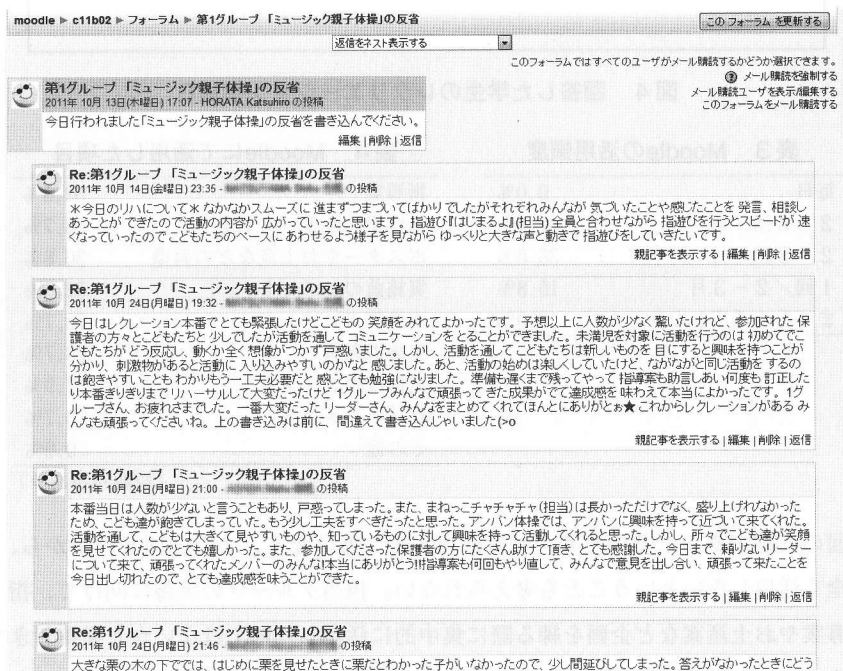


図5 学生によるレクリエーション終了後の書き込み（実際の画面）

活用した項目の活かし方についての代表的な意見を次にまとめる。

- ・「どのような環境でレクリエーションを行うのかわからなかったため、動画

- を見て環境や、子どもたちの様子を見ることができて、活動する上でイメージしやすかった」
- ・「メンバーや先生からのコメントを読むことで改善すべきところなどを話し合いの前に知ることができた」
 - ・「他のグループのコメントやポスター、お土産を参考に制作したり、動画を見て気づいたことを自分たちの活動に取り入れたりして活かした」
 - ・「みんなの意見がわかり、次回の話し合いまでに新たなアイデアを考えることができた」
 - ・「グループ内で集まらない時などにお互いに書き込み、意見を言い合い、いろいろな人の考えを一緒に見れてわかりやすかった」

など、指導案の作成や改善を行うに当たって活用した学生が57.9%と最も多く、次いで反省・改善する点を知ることに活用した学生が42.1%であった（表5）。実施した他のグループの指導案、使用物品、リハーサルや本番を実施しての改善点、教員の指導など一連の進み方をPDFや写真、コメントとして閲覧することが可能な状況の中で、それらをお手本としながら改善・工夫することに取り組んだことがうかがえる結果である。

表5 レクリエーションへの活かし方

反省点、改善すべき点を知れた	42.1%
他者からの感想を聞いた	5.3%
指導案の作成や改善に役立った	57.9%
指導案やおみやげなどを参考にした	21.1%
活動のイメージがしやすかった	10.5%
話し合いがスムーズにできた	15.8%
環境の確認をした	10.5%
目標を達成できるようにした	5.3%
新たな発見があった	5.3%
書き込みで意見を言い、色んな人の考えを把握できた	10.5%

（複数回答あり）

- 自身の担当したレクリエーションと他のグループを比較しての意見では、
- ・「自分たちが笑顔でいることや楽しく活動することがたいせつだと感じた」

- ・「どのグループの活動も子ども達の目線に立って考えられていて、子ども達も楽しそうに参加している姿をみて、雰囲気作りや環境を整えることの大切さを知り、次の機会に取り入れていきたいと感じた」
- ・「回を重ねるごとにどんどん反省点が改善されていくようだった。制作物とかすぐ手の込んだものを作っていたり、制作活動の準備物にひと工夫していたり、それぞれの新しいアイデアが見れた」
- ・「みんなの意見がわかり、次回の話し合いまでに新たなアイデアを考えることができた」
- ・「他のグループと比べて、学生と子ども達の触れ合いが少なかった」
- ・「他のグループのレクリエーションの反省点や良かった所を取り入れて行うことで、回を重ねるごとにいいレクリエーションになった」

など、「自身の担当したレクリエーションには反省点や改善点がある」、あるいは「他のグループから学ぶものや気づきがあった」とする意見が31.6%であった。また、自身のレクリエーションを振り返るだけでなく、他のグループに対して、「内容が面白い」との意見が21.1%あり、次いで、「回を重ねるごとに良くなっている」、「お土産や製作物などに工夫がされている」とした意見が15.8%であった。他のグループの意見や実際の動画を見ることで、実施の有無にかかわらず、現段階の指導案はどうか、本当に親子で楽しめるレクリエーションになっているかと客観的に見るきっかけとなったのではないだろうか。さら

表6 自分のグループと他のグループとの比較

他のグループ	回数を重ねるごとによくなっている	15.8%	52.6%
	内容が面白い	21.1%	
	子どもへの関わりが良い	5.3%	
	お土産や製作物などに工夫がされてる	15.8%	
自分のグループ	他のグループと比較して反省点、改善すべき点がある	31.6%	73.7%
	他のグループから学ぶものや気づきがあった	31.6%	
	リハーサルが少ない	5.3%	
	他のグループよりも良い点があった	15.8%	
	子どもへの関わりが少ない	10.5%	

(複数回答あり)

に他のレクリエーションとの比較といった点から、73.7%と多くの学生が自身の担当したレクリエーションに対しての記述をする結果となった(表6)。本番は進行することに集中しているため振り返って、また、他のグループを見ることで、もっと子どもとの関わりを持てる指導案にできたのではないかと、自身のグループの指導案を見返し、改善点を知る機会となっていたことがわかる。

Moodle活用を本講義に取り入れたことに関して、かなり有効だった、有効だったとした回答が89.5%であった(図6)。

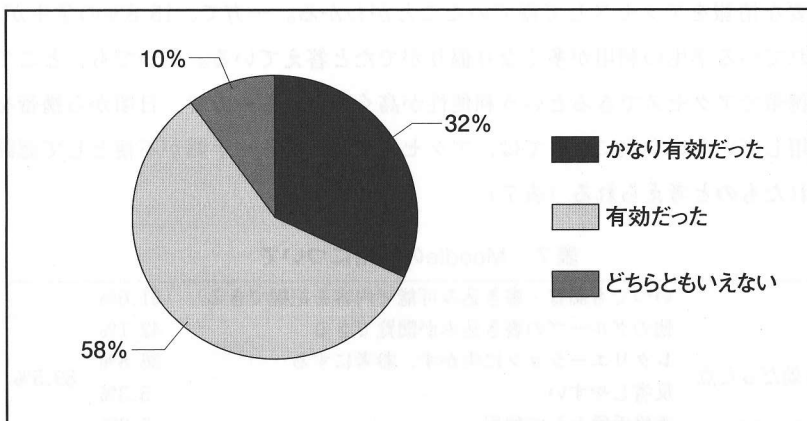


図6 Moodleの利用

その理由として、

- ・「携帯でいつでも指導案やコメントなどを見ることができ、また自分たちのグループだけでなく、他のグループのも見ることができた」
- ・「メンバーや先生、クラスの人達のコメントを読むことで励まされたり、コメントから学ぶこともたくさんあったメンバーでは気づけなかった工夫や改善もクラスの人達や先生のコメントを読むことで気づくことができた」
- ・「他のグループの話し合いの内容や、先生のアドバイス等を知ることができ、それを自分たちのレクリエーションに活かせたと思う」
- ・「一部の人だけに利用が偏ってしまったり、口頭で話し合った内容がふくま

れないのでどちらともいえない」

- ・「自分達の発表にどんなコメントがされたのか全員分見ることができたので、自己反省がしやすかった」

などとし、他のグループの書き込みが閲覧できるとしたものが42.1%と最も多く、レクリエーションに活かす・参考になったとしたものが36.8%、いつでも閲覧・入力でき内容を把握できるとしたものが31.6%であった。他のグループや同じグループのコメントを確認したり、指導案を見返したりと、その時々で必要な情報をアクセスして得ていたことがわかる。一方で、15.8%の学生が、慣れている学生の利用が多くなり偏りがでたと答えている。いつでも、どこでも携帯でアクセスできるという利便性が高く示される一方で、日頃から携帯を活用していない学生にとっては、アクセスするという一手間が不便として認識されたものと考えられる（表7）。

表7 Moodleの利用について

有効だった点	いつでも閲覧・書き込み可能で内容を把握できる	31.6%	89.5%
	他のグループの書き込みが閲覧できる	42.1%	
	レクリエーションに生かす、参考にする	36.8%	
	反省しやすい	5.3%	
	連絡手段として使用	5.3%	
	自分の意見が言える	5.3%	
有効でないと 感じる点	書き込む作業が大変	5.3%	26.3%
	利用が偏る	15.8%	
	書き込みをしたら通知してほしい	5.3%	
	どこまで書き込めばいいかわからない	10.5%	

（複数回答あり）

5. まとめ

子育て支援センターで実施する全5回のレクリエーションにおいて、全体への情報を周知する方法として、今回Moodleを導入した。レクリエーション初回のグループは講義開始後4回目での実施であり、準備に要する時間は十分とはいえない。しかし、限られた時間でより綿密に意思疎通を図るという点から

もMoodleの活用は有効であったと思われる。

また、学生一人ひとりとは1回の実施である。そのため、自身の担当する回に
取り組む際の参考程度の利用回数になるだろう。また、当然、レクリエーシ
ョン実施後は必要に迫られないため利用することはほとんどないだろうと考えら
れた。そこで、“全5回全員で作り上げる”という同じ意識を持てるように、
実施後の動画を見ての感想を全員にコメントしてもらうフォーラム機能を追加
した。このフォーラムによって、内容に沿った配慮事項や子どもをレクリエー
ションの世界に引き込む仕掛けなど、自身にはないアイデアや表現方法を学生
一人ひとりがモデルとなっていたこと、Moodleが学びあいの場になっていた
ことがうかがえた。

Moodleを導入することで、情報を周知するという点だけではなく、全5回
のレクリエーションがどのように変化していったかを確認できるという点から
も、“全員で作り上げる”という目標を達成することができたものと考えられる。

おわりに

学生は1年次よりフィールドワークにおいて、子どもに携わる経験を多く
持っている。中でも、今回取り上げた2年次では保育実習を経験し、設定保育
や部分保育など自身で企画・立案して実施する。このような経験の中、0-3
歳を対象に親子で楽しむレクリエーションを企画するときには、大きな発想の
転換が必要である。いわゆるお楽しみ会の要素を存分に含むレクリエーション
である。だが、ただ楽しませればいいだけではない。

多くの学生は企画を練る際「主活動として何をするか」を考え、導入・ま
とめといったその前後をつなぎ合わせていく。そのため、季節感がなく統一感の
ない企画となりやすい。だが、レクリエーションを実施するこの時間を1つの
世界として「どんな世界に子どもを連れて行くか」という視点を加えることで
その企画は魅力あるものへと変わる。

子育て支援者でもある保育者であるからこそ、積み重ねた知識と実践を統合
して親子とのかかわり方をこれからも模索し続けていってほしい。

参考文献

- ・荒木暁子：第3章 子どもの日常生活の養護 第4節運動・遊び・鍛錬・抱き方 兼松百合子・荒木暁子・羽室俊子（編）（2010）子どもの保健実習 すこやかな育ちをサポートするために（株同文書院
- ・池田裕恵：第4章 幼児のあそびの発達と健康 2節あそびの発達過程 民秋言・穂丸武臣（編）（2003）保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容健康（株北大路書房
- ・井上 博樹、奥村 晴彦、中田 平（2006）『Moodle入門—オープンソースで構築するeラーニングシステム』 海文堂出版
- ・Moodle Lite <https://renkeim2.kuas.kagoshima-u.ac.jp/>

論文要旨

The Trial of the Childcare Practice Using Moodle

—The Lesson Research on “Infant Care II”: the Recreation Plan for Infants—

HAYASHI Aiko and Katuhiro Horata

Abstract

In this paper, we take up the lesson of “Infant Care II” which is a graduation compulsory subject and is also a compulsory subject of childcare worker training. With this subject, including the development of infants at the age of less than 3 years old and the formulation of a childcare plan, etc. is called for. As part of that, we cooperate with the aid-for-childcare of the area and carry out the recreation. Since each student is to attend the recreation once and we have to carry it out 5 times in total, we have used Moodle for the purpose of aiming at common knowledge to the whole student, and examined the convenience.

From the result of a questionnaire, we can notice that the use of Moodle not only leads to the motivation that a student works out one recreation obtaining all students' cooperation planning, but it also brings about the result that each group of students becomes a good model, and that all the members can learn mutually by performing comparison with other groups.